

初冬の突然の強い寒気に対する農作物の被害対策について

平成17年12月2日
農業改良普及センター

広島地方気象台から平成17年12月1日午後4時に「強い寒気の南下に関する広島県気象情報 第1号」が発表され、12月4日(日)頃に、この時期としては強い寒気が南下して、北部では積雪となる恐れがあるとの情報がありました。燃料費が高騰している折から、効率的な暖房と保温対策に努めることが必要であり、当面(12月上旬)、園芸作物を中心に、各作物とも次のことについて留意してください。

1 寒害, 凍霜害対策

(野菜・花き)

【事前対策】

(1)暖房機器の点検整備を徹底する。

- ・暖房機器のバーナーノズルの適切な清掃
- ・燃焼機器の燃焼室内の掃除

(2)温室内の保温対策を徹底する。

- ・周壁部や谷部など被覆の隙間の点検・補修による機密性の向上
- ・二重・三重被覆資材や、保温性の高い内張り資材の導入による保温性の向上
- ・夜間の変温管理ができる多段式サーモ装置等の設置

(3)温室内の温度ムラ対策を徹底する。

- ・温風ダクトの配置やダクト吹き出し口の風量調整等の適正化
- ・循環扇の活用による温度の均一化
- ・温度センサーの適切な位置への設置

(4)作物別、品種別に、生育ステージに合わせたきめ細かな最適暖房温度の設定等の温度管理に努める。

(5)露地野菜・花き等は敷き藁、敷き草、ビニール、コモ、ヨシズ、寒冷紗等で被覆する。

(6)窒素肥料を過剰に施用すると徒長し耐寒性が低下するので注意する。

【事後対策】

凍霜害を受けた場合は早朝に散水して霜を除き、コモ等で被覆して直射日光にあたらないようにする。

(果樹)

(1)果樹園等の傾斜地の下手にある防風林の下枝を切り、冷気の留まりを防ぐ。

(2)レモンは低温や霜に遭遇すると果皮障害を発生しやすいため、樹冠外周部を優先的に収穫する。

(3)寒さに弱いデコポン、はるみでは、北向き、くぼ地にある日常低温に会い易い園地で作付けされているものには、寒冷紗等の被覆資材で被覆する。

【事後対策】

デコポン、はるみ、ハッサク、ネーブルは約-3℃以下の低温が継続するとす上がりが発生しやすくなる。収穫後は他の園地の物と仕分け管理する。

2 雪害

(露地野菜・花き)

【事前対策】

原則的に、高さ30cm、畝幅30sm程度の小トンネルを設置する。べたがけ資材では被害軽減は難しい。

(ハウス野菜・花き)

【事前対策】

(1)ハウス等では次の対策を実施する。

- ・ パイプハウスでは降雪の恐れのある場合、5～10m置きに中柱を設置し、ビニールの破損の確認、補修をする。
 - ・ 連投ハウスでは必要に応じて谷部分の降雪およびサイドの降雪を早めに除去する。
 - ・ できれば暖房し、難しい場合でも風を循環するだけでも積雪の被害を軽減できる。
 - ・ 上述の小トンネルやその中にロウソクを燃やすことも効果がある。
- (2) トマト等の雨よけビニールハウスについては、ビニールを除去して収納し、ハウスの本体を守る。

(果樹)

【事前対策】

落葉果樹では棚の補強、不要な枝の剪定を行う。特に、棚上にビニールハウスや網等があると雪が付着しやすくなるので必ず除去する。

【事後対策】

地下水、河川水利用や黒土、籾殻薫炭利用して融雪促進をする。

(畜産)

【事前対策】

畜舎周辺の水道管等の防寒対策を早急を実施し、凍結を防ぐ。